

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1474200324	事業の開始年月日	平成16年6月3日
		指定年月日	平成16年6月1日
法人名	特定非営利活動法人グリーンハウスえがお		
事業所名	グループホームえがお		
所在地	( 243-0426 ) 神奈川県海老名市門沢橋4-1-10		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 9名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常をどう過ごすかが一番大切であると考えます。食事はみんなが揃うまで待ち職員も一緒に頂きます。排泄はトイレに案内します。掃除、洗濯もみんなでやります。きれいさっぱりしたリビングでみんなでお茶の時間です。できる事をやれたことに自身の満足感が表情に現れイキイキとします。やれた事を認めてもらい感謝されてこんな嬉しいことはないのです。本人の想いを否定せず受け止めたその方に沿った対応を心がけていることが、それぞれの個性が維持されている所であると自負しています。日々変化する利用者一人一人向き合い試行錯誤してる毎日である。わがまま＝自分の意思を持ってると捉えて何気ない日常が過ごせることに感謝の毎日である。利用者9名が全て女性だけの賑やかな毎日である。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年1月18日	評価機関 評価決定日	令和4年3月2日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、平成16年に市内の杉久保に開設し、12年後の平成28年3月に現在の門沢橋に新築移転しています。JR相模線「門沢橋」駅より徒歩1分、駅から見えるオレンジ色の民家2階建て、1階5室、2階4室、定員9名の1ユニットのグループホームです。

<優れている点>

管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、何でも話し合える風通しの良い職場環境を作っています。地域とも密接な協調関係を作り、良好な職場環境から理念の実践に繋がり、利用者それぞれが役割を持ち生活しており、家庭的な雰囲気醸成されています。利用者の急変や事故発生、災害対策等に真剣に取り組んでいます。急変に備え、毎年消防署員の指導の下、救急法、蘇生法を学んでいます。また、近隣の河川氾濫、火災、夜間を想定しての避難訓練を毎年4回行っており、定期的な避難訓練の重要性を認識しています。

<工夫点>

毎月実施するミーティングの議事録をミーティング欠席者に配付し、欠席者からミーティング時の意見・確認をしています。「ミーティングの議事録から」シートに①理解したこと、②疑問点、③今後検討して欲しい事などを記入し提出することで、次回ミーティングで検討することにしており、議事内容を周知し、職員意見を運営に活かす取り組みを行っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームえがお
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度初めのミーティング時に、利用者一人一人にどう向き合いどう関わってきたか等々を振り返り感じた事、想いを発表し合う。そこから見えてくる利用者への関わり等について意見交換する。そして事業所理念の一つ一つの内容、意味を確認する。そして今年度に向けての利用者への関わり等について共有認識をもち目標を挙げて取り組んでいます。	事業所内に理念を掲示し、周知を図っています。毎年、年度初めのミーティングで理念を振り返り確認し、今年度はどのような取り組みをしていくか職員と意見交換し目標を設定し、理念の実践に繋げています。今年度は「笑顔にあふれるホーム」を掲げ、共有し取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の中でも、毎日の散歩は欠かせない日常です。犬の散歩中に、赤ちゃん連れの若いママさん等が足を止めて一言二言と言葉を交わす。季節の草花を見てると摘んでくれたり、この前は、前の畑で長芋の子（むかご）を収穫しないかと声をかけられ沢山頂きみんなでむかごご飯にしてみんなで頂きました。珍しさもあってそこから話が弾みました。	コロナ禍ですが、毎日の散歩で近隣住民との触れ合いがあり、季節の草花や畑の野菜を貰ったりしています。事業所の「えがお祭り」には近所に招待状を配布し、参加を案内しています。豚汁や焼きそば、甘酒などを提供し、また、バザーには不用品の提供を受けて実施し、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の前に行っていたボランティアさんによる健康体操に地域の方も一緒に参加されていた方と10月に行ったえがお祭りで久しぶりの再会に喜びあいました。今までに積み上げてきた関係が継続してる事に嬉しくなりました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年は、コロナ禍を理由に開催する事はありませんでしたが、緊急事態宣言が解除された10月にえがお祭りと同時開催しています。えがおの取り組みの報告、水害対策についての意見交換をしています。久しぶりの再会に予定時間が過ぎても席を立とうとせず話が弾んでました。	今年度の運営推進会議の開催は、コロナ禍で10月の開催、1回にとどまっています。民生委員、自治会長、ボランティアの各委員が参加し、活動報告、意見交換を行っています。特に近くの河川氾濫を想定した避難について意見交換をしています。	コロナ禍が収束する間は、書面開催を含め2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催されることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の方の利用者があることから、市担当者の方が定期的に訪問されてます。その時に利用者の様子、行事等の取組みの報告等を実施しています。	生活保護受給者の利用があり、市の生活支援課と連携を取っています。介護認定更新時には管理者が行政に出向き手続きしています。地域包括支援センターとは協力関係を築き、入居者の受け入れ相談に応じたり、困難事例の相談、アドバイスを得たりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束がもたらす身体的、精神的、社会的弊害、拘束禁止の対象となる具体的な行為等の確認をします。事例を挙げてそれについての関わり方、介助方法について意見交換しています。『仕方がない』で済ますのではなく他に良い方法はないのか等の視点で取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を開催すると共に、「身体拘束ゼロへの取り組み」勉強会を実施し、読み合わせ、拘束がもたらす弊害や禁止の対象になる具体的な行為について再認識し、具体的事例を上げながら意見交換し、意識向上を図っています。身体拘束の弊害を理解し、日中は玄関の施錠はしていません。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	圧迫痕、打撲痕等はどうのように出来たのか確認し合い、介助する時の手の位置、転倒防止等の介護の仕方等の意見交換をしています。一人一人の状況を見極めどこに介護が必要なのか見極め対応する事を確認しています。	ミーティングで「虐待を考える」虐待経験者の対談形式テキストを読み合わせ、意見交換を行うと共に、具体的な虐待事例を学んでいます。管理者は、職員のメンタル面に留意し、職員に対し、ケアの面でのストレスや困った時などの対応について適切なアドバイスをしています。	虐待チェックシート等を活用し、職員の虐待防止への再確認、意識向上を図られることも期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用され後見人さんが付いています。日々の生活の中で、変化していく体調等の様子、それに伴う対応法等を伝達しています。毎回本人にも同席して頂き、会話を交わすことで様子を確認して頂き支援活用に生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者家族、本人の入所に対する不安、自責の念、葛藤等の思いをしっかりと受け止める対応をしています。入所後他利用者との関係性どう作り上げていくか等説明し安心して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	何気ない利用者同士の会話から、職員との会話から今の想いを感じ取ることができます。他利用者への対応等もよく見てられて『それでいいのか』と問われることもあります。その思いを真摯に受け止めて対応したいと考えています。	コロナ禍前は、家族の面会時や運営会議、家族会などを通じて意見、要望等を聞いています。現在は、面会時や電話、家族の参加がある「えがお祭り」のイベントなどで聞く機会を設けています。また、毎月の「えがお便り」で家族とのコミュニケーションを図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング時に職員の提案等を聞く機会を設けています。その提案等は、2か月に1回の定例会に持ち寄り代表者間で周知し検討、改善等し職員が働きやすい環境等に努めています。	日頃から職員の意見や提案を聞き、毎月のミーティングでも聞く機会を設け話し合い運営に反映させています。ミーティングの欠席者には議事録を配付し意見を聞くようにしています。提案などは法人代表者が参加する定例会でも検討し改善を図っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	2ヶ月1回の定例会で各ホーム内の報告と検討会をしています。職員個々の勤務状況や利用者の現状等を話し合い、それに見合った勤務体制になっっているか、職員同士の関係性等を考慮し働きやすい環境であるか見直し確認しています。	管理者は、職員の現状や能力、勤務状況を把握し、働きやすい職場づくりを心掛けています。法人代表者が参加して開催する2ヶ月ごとの定例会で各事業所状況を報告して協議し、就業環境の整備に努めています。勤務体制や休憩時間、休暇の取得は職員の希望に応じています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティング時に、個人のサービス内容を確認します。日々変化してる利用者に対して、その方に沿った対応であるか？これでいいんだと決めつけた介護をしてないか？等々の対応法について意見交換して共有認識をし実践へと繋げていきます。その実践からの効果が自信となり介護に対する意識を高める事になると考えます。	年間研修計画に基づき全職員に研修を実施しています。外部研修受講時は出勤扱いとなり、研修費、交通費の支給があります。受講者は1週間以内に研修報告書を提出し、ミーティングで2次研修を行いスキルアップを図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年もコロナ禍の中でGHとの交流会は中止せざるを得ない状況の中えがお内でテーマを提示し勉強会を行ってます。介護度はどのように決めているの？と素朴な疑問が職員の方から出され、じゃ介護保険を勉強しようかという事で計画中です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	誰も知る人がいない中に入る不安は相当のストレスであると考えます。今までの生活習慣を大事にしながら何に関心があるのか、好きなことは何か等々聞きながら気の合う利用者間の関係づくりと居場所づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスを利用するにあたり、ここで本当にいいのか迷惑をかけるのではないかなど、心配されていた家族が、此処での生活に居場所を見つけ生き生きとした顔つきに変わっていく様子を垣間見て『なんか若返ったね』とお言葉をいただいた事に『えがお』の日常生活を評価して頂いたと思っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すぐ利用したいのか、今後利用したいのか、そもそもグループホームとは何なのか等等、相談内容を見極め本人が必要とする情報を提供したり支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎朝の掃除、洗濯等家事全般は、利用者と職員とで一緒に行きます。利用者一人一人がそれぞれの役割がある事で、自信に満ちた生き生きとした表情をみせてくれます。困ってる利用者にとりげなく手を差し伸べる様子を見るにつけ私たち職員が助けられていると実感する毎日です。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ずーと働きづくめだった母がマニキュアなど縁のなかったのに、赤い爪を見て『お母さんいいね、なんか楽しそう』と声をかけてられる様子を見て心が温かくなりました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	山梨で長い間暮らし、病気をきっかけに地元である海老名に居を移しても、電話、手紙等の連絡を取り合っていた方から、久しぶりに果物と手紙が届き早速お礼の電話をしました。病気が進んでどこまで理解されているか定かでないが声と表情から懐かしさを感じ取ることができました。	事前連絡で家族や馴染みの人の面会を受け入れています。成人式を迎えた孫の晴れ着姿を見せに来訪しています。電話時には雑音のない静かな場所に案内し対応しています。コロナ禍前は、故郷へのブドウ狩りや利用者の希望に応じた旅行に出かける支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方或いは、話しが合う方達の席が近くなるように配慮しています。個を大事にし自分の居場所を決めてる方に対しては、その居場所を大事にし、好きそうな本をさりげなくそばに置いたりしています。見えないと思うと居室のソファに座っていられたり、と気ままに過ごされていますが常に気配りは忘れないように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ADL低下の低下に伴いここでの生活が難しくなってきた方に対して、家族、本人、職員等で今後の生活についてどこがいいのか情報を提供しながらお互いが納得できる形で進めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	寡黙な方で自らの思いを発信する事は、ほとんどない。立ち上がり等に手を差し出すと振り払う、話しかけても『知らない、忘れた』とそっぽを向く。散歩の声掛けも『鼻炎だから行かない』と取り付く暇もない。しかし「皆が下で待ってるよ、行かないなら自分で言って来て」と声かけるとずっと立ち上がり何事もなかった風に散歩に参加しています。	入居前の利用者の性格や趣向などの情報を基にして、入居後の生活行動を注意深く見守り一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。食事の時間、お茶の時間、三時のおやつ時間は職員が同席しているので、何気ない会話や利用者同士のおしゃべりの中から把握することが多くあり、情報は職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時、本人、家族そして担当の介護支援専門員から、今までの経過、本人、家族の想い等の情報収集しその内容を職員間で共有します。日々関わる中での言動からその方を知り、確認しながらプランに繋げていきます。検討し新たな環境にスムーズには入れるような関係づくりを考慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子、言動の変化とその裏に隠された思い等々を個人記録に記録することで現状を把握していきます。そして現状をミーティング時等に職員間で共有しています。そこで意見交換し介護サービスに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	手の平に食べ物をのせてから口に入れてる。トイレの場所が分からない時がある。間に合わなくて汚すことが増えた。最近入浴を拒否するがどうしたんだろう等々の変化を記録していきます。それを職員間で共有し一つ一つの何故について検討します。そして解決すべき問題点、対応の仕方等等が見えてくる。そして介護計画へとつなげていきます。	毎月のミーティングの中で利用者全員のサービス計画書の確認項目があり、計画の進捗などについて確認しています。介護計画の定期的見直しに際しては、利用者、家族の意向や看護師などの意見も反映させて作成し、家族にはできる限り面談して説明し同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の中での利用者との関わりの中で本人の発する言葉が答えだと思ってます。介護する場面で発した利用者の言葉をそのまま記録しその時の想いを職員間で共有します。そしてそれがその方が希望する介護法であると捉えています。答えは利用者が教えてくれます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他の病気で入院したことで尿の出が悪いことを知ることとなり尿カテーテル装着となるがえがおで受け入れてもらえるかとの相談を家族から受けて家族の協力も得られる事から受け入れました。カテーテルに異常に固執したりと予想外の展開もありましたが1ヶ月半位で外れ自力での排泄ができるようになり安堵しました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くの公園までみんなで散歩します。道端に咲いてる草花に立ち止まり季節を感じます。摘んでお部屋に飾る方もいます。また途中で出会う小さな子供に『可愛いね』と声をかける方、空を見上げて飛行機或いは鳥が飛んでると指さす方々と利用者の散歩の楽しみ方に発見を頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科Drと月4回の歯科医の往診をお願いします。口の中を開けることも難しかった方も最近では、安心した表情で口腔ケアを受けられるようになり信頼関係が出来てきてる事を実感しています。	全員がかかりつけ医を受診しています。訪問看護は週1回来訪し、24時間対応となっています。受診結果は、必要に応じて家族に連絡し、家族が診察に同席することもあります。その他の疾患の主治医への通院は家族が支援していますが、診察結果は情報を共有しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活の中でちょっとした変化、薬が変わった等々を報告し情報を共有しています。気になる事を相談し、情報を伝え看護師から往診のDrに報告することで適切な受診が受けれる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送で入院された際に発生状況、えがおでの普段の様子などの情報を伝え状況が許す限りえがおと同じような援助をお願いをしました。また帰れる条件などを双方で確認しあい早い退院に向けての協力をしています。特に入院の必要がない場合は今後のフォローをどうしたらよいか等の助言を頂きそのように動いています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体機能の重度化してきている場合、随時家族に報告、そして実際にホームに来て頂いて本人の様子を確認してもらいます。えがおでできる事できない事を説明し今後の対応について双方が納得しながら進めています。	入居時の重要事項説明の際に「容態悪化時の施設対応の説明」の文書により方針を説明して同意を得ています。入居の継続が困難な場合は、近隣の特別養護老人ホームへの転居を検討してもらうこともあります。これまで看取りの実績はありませんが、今後の課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署から講師を依頼して救急法（心臓マッサージ）を受講しています。（年に1回恒例）が、毎年やっても忘れていたり又新たな発見があり有意義な時間となっています。食事中に気管に詰まらせて救急隊の指導のもと心臓マッサージを実際に経験したことは大きな自信になりました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	河川氾濫、火災、夜間想定しての避難訓練を毎年4回行ってます。その都度、消火器、自動通報装置の仕組み、解除法等を確認し説明をしています。一昨年の水害時にコミセンに避難した経験を活かし、当日の動きの見直し避難のタイミングと避難の方法、必要物品の補充等等を検討しています。そして定期的な避難訓練の必要性も身をもって感じています。	避難訓練は水害、火災などの事態を想定し利用者も参加し定期的の実施しています。訓練に際しては近隣住民の支援も得ています。備蓄品は、非常食、飲料水は概ね3日分、その他カセットコンロなどの非常用物品を1階と2階の倉庫に分散して保管しています。備蓄品一覧表を倉庫やリビングに貼り明示しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自ら訴えることができない、訴えない方に思いを馳せてます。何に反応し何に表情が変化するのか。この前国語の教科書から夏目漱石、石川啄木等の作品を説明すると身を乗り出し頷かれる様子を見て関心があるんだと嬉しさが込み上げました。その方からは決して発信しない部分の発見でした。	一人ひとりの人格、個性を尊重して、決して一律の介護にならないよう努力しています。言葉遣いも一般の会話と介護の現場の会話は異なるのだという意識を常に持ち、職員に不適切な言動があった場合は、その場ですぐに職員同士で注意し合い、再発防止に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お茶の時間等に、何気ない会話から生まれ育った所の自慢、風習等で話が盛り上がります。その会話の内容からそれぞれの今の時代が見え隠れします。両親は健在で、兄弟姉妹に囲まれわがまま一杯で生活してる。その方にとっては一番輝いてる時代なんですね。普段から会話が出来る空間を大事にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝のお茶の時間等に今日はいつもの発語が少ないとか居眠りしてる、落ち着かなくて動き回ってるな等々の一人一人の利用者の言動を観察しながら便は出てるかな夜は眠れなかったのかな他利用者との関係に何かあったのか等々いつもと違う原因を模索しながら本人により添う対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お出かけ用の衣類（おしゃれ着）を普段着とは別に保管しており敬老会などの行事や外出する時にその衣類を準備するととても喜ばれ表情がイキイキしてきます。普段でも胸にブローチを付けたらいつもと違う洋服を着ているときは、『よく似合います、素敵です』と声かけて自信を持つて頂ける対応をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べる事は、一番大事であると捉えています。3度の食事は勿論、おやつ時も全員が揃うまで待ち、一緒に頂いています。空腹だから食べれるというものではなく、心身共に安定した環境を作るのも私たちの仕事であると考えます。『みんなで食べると美味しいね』とは利用者の言葉です。お茶入れ、洗い物も率先してやって下さいます。	食材と献立は専門業者に委託し、調理は職員が行い出来立ての食事を提供しています。正月や敬老会、誕生会、クリスマスなどは特別食になり、希望により宅配寿司やハンバーガーなども提供しています。利用者が役割を持ち、できる範囲で、食器洗い、テーブル拭き、下膳を手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご飯を毎回一口残す方がいました。『美味しんだけど動かないから食べれない』が口癖でした。それでご飯の食べれる量をみせて確認します。おかずの量も少なめに提供するようにしました。『美味しく頂きました』と今では、完食されます。散歩も参加され動きも倍増しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	生命を維持していくための入り口である口腔ケアが一番大切であると考えます。痛がってさせてくれなかった方が今では安心しきった表情で介助させてくれるようになり、継続は力なりを実感してる所である。ただ今まで出来ていた方が、歯磨きの意味が分からなくなり介助に対しては強い拒否でどうしたら磨いてくれるか悪戦苦闘してる所である。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	『椅子に座ったらお尻が冷たい』『椅子が濡れていた』と失禁した事を認めたくない方がいます。濡れて気持ち悪い事は分かりますし自ら着替えることもできますので安易にオムツは使用しません。外出時、食事前後等に『今トイレが空いてるけど行きませんか』とさりげなく声をかけてます。	排泄チェック表の排泄パターンを把握しながら利用者の何気ないサインを見逃さず、さりげなく声を掛けてトイレに誘導しています。自立した排泄が維持できるよう、時には失敗や失禁がありますが、羞恥心を抱かせないように配慮して職員は自立排泄に向けて笑顔で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	落ち着きがない、食欲がない、イライラしていると便は出てるかと確認します。そして水分が摂れているかを重視し水分を摂らない方は何だったら飲むのかどうしたら飲んでくれるか食事前だったら飲むのか等々試行し結果を共有していきます。毎朝のラジオ体操と散歩、風船バレー等々の身体を動かせる場面を作っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	日々変化している利用者はどう声掛けしたら理解してもらおうのか、声掛けのタイミングはどこなのか一人一人を見極めて入浴に誘います。浴室に案内しても物が散乱しているとそちらの方に意識がいき入浴に繋がらない方、なかなか脱いでくれない方等々とその方のタイミングに合わせてスムーズに入れる様に関わっています。	入浴は週5日可能です。毎日入る利用者もいます。浴室内の暖房や湯温、脱衣場の整理などに注意を払っています。入浴を理解できない利用者には、脱衣行為を利用してスムーズな入浴に繋げています。入浴中は職員は脱衣場でさりげなく見守り、くつろいで入浴できるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の今の状況を見極めそれに沿った対応でないと頑として動きません。動いてもらうための技術ではなく本人の意思で動かないのだから本人がその気になるまでひたすら待ちます。本人の意に添わなかった対応はどこなのか反省します。本人の様子を観察しどの場面でどのタイミングで声をかけるか、手をだすか見極めた対応が必要です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	『薬服用一覧表』に薬の目的や副作用等を明記しておりいつでも確認できるようにしています。薬の変更等は、日誌に記録し全職員に周知しています。錠剤を手のひらに載せたまま飲まない方、異物と捉えて吐き出す方等々には、職員のメンバーを変えたり時間をずらしたりと飲める工夫をしています。その方に合わせて確実に服用できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	朝食が終わると『私は1階の掃除だ』とモップの準備をされます。山のような洗濯物を前にして競うようにたたんで下さいます。名前を一人一人確認して『○○さんの』と教えてくれます。『みんなでやると早いし綺麗で気持ちいいね』と出来た事に喜びと自信が溢れています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春夏秋冬天気の良い日は全員で散歩に行くのを日課にしています。散歩中に小さい子に会ったり可愛い花を見つけたり鳥のさえずりを聞いて季節を肌で感じ取ります。玄関先ですぐに『空気が美味しいね』と言う感性にはびっくりです。駐車場にベンチを準備し、全員が揃うのを待っています。手を繋ぐ方、車いすを押して下さる方等々とみんなで協力して全員で散歩に行けるように援助しています。	コロナ禍が収まっていた時期には、近隣の県立公園へ弁当持参した紅葉狩りや、正月は近くの神社へ初詣に出かけています。日常的には、敷地内の日当たりのよいベンチで外気浴したり、晴れた日には毎日のように近隣を一周する散歩に出かけ体力を維持しています。また、事業所の前にある畑の野菜の育つ様子を見たりして季節を感じるように工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月2千円の小遣いを預かり其中で歯磨き粉、湯のみ茶碗等の小物を必要に応じて購入できるように支援しています。紅葉狩り、お祭り時も、個人でお金を持ちたいものを自分で選んで自分で購入できる支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ここに生活されて6年近くなるのに定期的に電話を下さる方がいます。そういう時は静かな所に案内し、ゆったりと話ができるように支援してます。『長い付き合いはあなたの優しい人間性ですね』と言葉をかけると嬉しそうに表情を崩されます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングにはソファにカバーをかけクッションを置いたり壁際に本立てを置き、見たい本に手が出せるようになってます。玄関先には、季節の花を植えて下駄に入ると季節の花を飾ってます等々、温かな居心地の良い空間づくりを心がけています。	リビングは2階の日当たりの良い南側で、窓側に沿って長いソファが置いてあり利用者は読書や雑談など、くつろげる場所となっています。手作りの色鮮やかな大きなカレンダーや「ひまわりむすめ」と称した利用者全員の笑顔の写真がひまわりの形に壁を飾っています。暖かく穏やかな雰囲気になるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2階の共有空間（リビング）には、本棚には絵本、教科書、動物図鑑等の色々なジャンルの本を置いています。あえて音はなく静かな空間ができてます。その中本を読む方、ドリルをする方、本を破いてたたんでと何か仕事をしているのでしょうか、思い思いに過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた寝具、箆笥、ソファ等を持ち込み見慣れたものに囲まれた居室になっています。寝る前は本を読む習慣の方は本を持参して読まれています。壁には動物の写真を貼ったり可愛いぬいぐるみを置いたり、散歩時に、道端に咲いてる可愛い花を摘んできて部屋に飾ってる方もいます。	居室は1階に5部屋、2階に4部屋の配置となっており、各部屋の入口には手作りの木製の名札を掛けています。エアコン、電動ベッド、洋服ダンス、整理ダンスなどは備え付けです。利用者は馴染みの調度類を置いたり家族の写真などを飾って思い思いに過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを『お手洗い』『便所』等々、その方が普段使ってる言葉で誘います。また『ちょっと来て頂けますか』『手伝っていただけますか』と目的の言葉をあえて使わない場合もあります。それはあえて混乱させないためです。目立つ色のテープで知らせたりと安全性と本人の機能を大事にした関わりをしています。		

2021年度

事業所名 グループホーム えがお  
 作成日：令和 4 年 3月 7 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	高齢者虐待防止法等についての勉強会を行っている中で、案外何気ない行為が『これって虐待?』に繋がる事案がある。日常の中に不適切な介護をしてないか職員同士で確認する必要があると考える。	虐待防止やケアの質の向上にむた介護知識・技術の向上について、介護職員個人レベルで自己研さんに努める。	①身体的虐待②心理的虐待そして、その具体例から確認し、発生要因の特徴を学ぶ。③虐待チェックシート等を活用して虐待防止への再確認する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月